

平成25年度岐阜総合学園高等学校自己評価

(○：成果▲：課題※：来年度に向けての改善策)

1 学校経営

A (B) C D

- 部活動において、ホッケー部男子の国体第3位、弓道部の女子団体インターハイ、全国選抜ともに第3位、マルチメディア部の文部科学大臣賞受賞、太鼓部の全国高校総合文化祭第3位など、多くの部で好成績を残した。また、飛び出せスーパー専門高校生推進事業、資格試験、検定試験、コンテストなどに積極的に取り組み、その成果を進路実現に生かすことができた。
- 模擬試験の学年実施や系列実施、産業社会と人間の見直しなどキャリア教育および系列学習を充実することができた。
- 創立50周年記念事業に取り組みながら、明るく元気なあいさつ、凛とした身だしなみなど、社会から望まれる人間性を育成する教育を推進することができた。
- ▲部活動と勉強の両立、特に家庭学習の習慣化が課題である。
- ※来年度は1，2年次と3年次の数学理科が新教育課程実施となる。この機会に総合学科ならではのキャリア教育の推進と基礎学力の定着の双方を視野に入れながら、産業社会と人間、総合的な学習の内容や科目選択指導の充実を図りたい。

2 教務部

A (B) C D

- 系列の特色を生かした指導の成果が資格・検定取得状況等に表れている。
- 科目選択指導を複数の職員できめ細かく指導ができるように実施方法を一部改善しより有効な履修計画を生徒が計画できるようになった。
- 相互授業参観・授業アンケートの実施、教科会での意見交流などにより、授業改善への意識を向上させることができた。
- 校外での本校の教員による出前授業を企画しHPに掲載した。依頼のあった中学校で授業を実施し系列学習の魅力を伝えることができた。
- ▲各考査期間に家庭学習時間の調査・集計を行った。学習時間確保は見られたもののしっかりと基礎学力が定着するまでには至っていない。
- ※基礎学力定着を図るために各教科が具体的な到達目標を定め、課題や指導法および評価法を改善し、生徒の学力向上に努める。
- ※相互授業参観、授業アンケートを継続し、教科指導力の向上に努める。特に「言語活動の充実」を意識した授業改善を推進する。
- ※メールマガジンの読者、ホームページの来訪者を増やす。関心をもってもらえるように工夫しPRする。

2 進路指導部

(A) B C D

- 本年度は、国立大学は1名であったが、早稲田・慶応といった難関私立大学へ合格することができた。特徴的なのは、AOや公募推薦による大学進学者が増え、指定校推薦は減少傾向にある。

キャリア教育のめざす「いける学校から行きたい学校へ」が進んでいる。公募推薦での大学合格率は、全国偏差値 42.5～45 の大学では 92% (33/36)、47.5～50 では 57% (16/28)、52.5～55 では 56% (5/9) の合格率となっており、また第一志望校合格率 74% となった。学力的にも合格ボーダーが昨年と比べ 2.5 ポイント上昇した。

○就職は求人も多く獲得できたこともあり、内定率は 100% となった。公務員志望は 8 名中、4 名が合格した。

▲3 年次 SS 補習受講生の中で、指定校などへ流れる生徒が多くいた。一般入試までモチベーションを持たせる指導について検討する必要がある。

▲ベネッセのハイスクールオンラインを使った、学習指導法について研究する必要がある。

※SS 補習の希望者については、進路適正・学力・動機など面談をとおしてきめ細かく進路相談をしていくことが大切である。個々の生徒から情報を細かく収集することにより進学内定までの最適な方法を考えていく。

※スマートホンの普及にともないベネッセが始めたネットサービスを使いこなすため、担任や系列主任の先生に ID の取得をしてもらい使い方について周知していきたい。

3 生徒指導部

A (B) C D

○今年度は 2 ヶ月に 1 回の全校一斉登校点検とした。本校生徒の頭髪は登校点検や普段の指導によって保たれている。

▲男女とも頭髪の長さが気になっている。特に女子の長い髪が左右の視野を遮っていることが気になり、今後の指導検討課題としたい。

○遅刻数はこの 2 年減少傾向である。

▲遅刻について 12 月・1 月が多くなる。年間 1000 名を切る目標を実現したい。(本年度 1024 名)

▲交通事故防止啓発活動を昨年度より強化し減少ペースであったが、1 月に 6 件発生し 1 ヶ月間の最高件数を記録。そのため昨年度と同数に近づいてしまった。スマホでの安全マップ活用率の向上も目指し、更に強化を図りたい。

※交通事故・携帯電話不正使用者激増を踏まえ、重点的に啓発活動を推進し、「交通事故ゼロ」「携帯不正使用ゼロ」を目指す。スマホを活用した安全マップの利用率を上げ、危険回避の意識を向上させる。

※今年度は、自転車のパンクが多発した。いたずらを疑い、調査をしたが確証を得ることはできなかった。ただ、ゴムの劣化等、いたずら以外の原因によるパンクも認められたので、日常のメンテナンスも指導したい。併せて、来年度は 1 クラス増となるので、駐輪指導を重点的に行いたい。

※授業の大切さを認識させるためにも、授業開始・終了時の挨拶をしっかりとさせ、服装チェックも行う（授業に向かう姿勢をしっかりとさせる強化週間を設定する）。

※ロッカーの凹み、壁に穴があく事件が起きた。故意にやる生徒はいないと思っています。公共物など、器物損壊等をしてしまったときには、素直に報告・謝罪ができる人間性を育成する。

4 保健厚生部

Ⓐ B C D

○集団行動では、担当職員が早い時間から指導を始め、生徒も素早い行動が出来た。新体力テストでは、今年度も良い成績であった。

○保健室の利用において、怠学傾向の生徒利用もなく適切であった。

○AED講習会では、心停止事故が発生した時、至急対応できるように、職員とスポーツ科学系列の生徒が受講し修了証を受けた。

▲ゴミの出し方（分別）、飲食ゴミの放置、ガムの吐き捨て等、一部マナーの悪い点が見受けられた。

※今年度は概ね良い活動・実施状況であったので、来年度も今年度同様、活動・実施していきたい。

ゴミの分別、放置、ガムの吐き捨て、マナーについて注意していきたい。

5 特別活動部

A Ⓑ C D

○生徒一人一人が、学校行事や、委員会活動、部活動などの諸活動において、意義を見だし、積極的に取り組む姿勢が、学校の活力となることができた。

○部活動を中心に、各種委員会、系列などにおいて、生徒が、主体的に活動し、その結果、数々のコンテスト、コンクール、などで結果を出した。

▲今年度1年次生の部活動定着状況に一部定着がみられなかった。。特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携を登録カードを使い保護者懇談などにフィードバックしていきたい。

▲諸活動において、さらに学校への規範意識と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培うことが課題である。

※それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。

※部活動への取り組みについては、新入生に対してのオリエンテーションの在り方、本登録後の活動状況など、特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携についてより効率化を目指し、生徒一人一人に合った指導方法、援助について研究する。

※生徒会活動においてより積極的に参加できるように生徒会役員選挙から生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。

※保護者、地域の方々により生徒の活動を理解して頂けるよう、より良い広報活動の研究。

5 図書部

Ⓐ B C D

○昨年度と比較し、更に充実した朝読書が実施できた。

○図書館で読書に親しむ生徒が多くなるとともに、貸出冊数も増加した。

○読書指導の一環である「読み語りの会」の参加者が増加し、盛況であった。

○第59回岐阜県青少年読書感想文コンクール高等学校部門に応募した結果、2編が優良賞と佳作に入賞した。

○第45回岐阜県高等学校図書館だよりコンクール中日賞を受賞した。

▲読書に興味関心のない生徒や読む習慣が身につけていない生徒への対応。

※読書に興味・関心のない生徒に対しては、折に触れて職員全体で読書の意義を説くとともに、人間関係を大切にしながら継続的に指導していく。

※3年目を迎えた通年朝読書はしだいに定着してきたが、さらに充実発展させるための工夫を重ね、本校の誇る伝統行事にしていきたい。

6 渉外部

Ⓐ B C D

○会員との連携をより進めたことでPTA研修、学園祭・耐寒競歩大会でのPTAバザーにおける参加者が増えた。

▲PTA総会により多くの人に参加できるように進める。

※今年度は、概ね良い活動や実施状況であった。来年度も今年度同様な活動を実施していきたい。

6 1年次

A Ⓑ C D

○「産業社会と人間」の授業を通して自己を様々な角度から見つめ直すことができた。特にインターンシップや先輩の話、進路講話、ライフプランの作成は、自分の将来を真剣に見つめ直す良い機会となった。

○科目選択では教務部、進路指導部、教科、系列と連携を取って生徒の将来に合った指導ができた。

○落ち着いた学校生活を送ることを目的とする朝の10分間読書に、落ち着いて取り組ませることができた。

▲特別指導・携帯指導を受けた生徒、交通事故の生徒が数名いた。『生命の尊さや規律のもつ意味を理解させ、社会規範を遵守する態度を育成する。』という年次としての具体的な取り組みを一層徹底する必要がある。

※総合学科の特徴である科目選択では、担任をはじめとし各分掌・教科・系列など多くの先生の指導により、生徒は幅広い視野で考え自分の進路を明確にすることができた。また、産業社会と人間の科目では1年間を見通した計画に基づき実施し、生徒自ら自信を持ったライフプランの作成ができた。今後さらに年間計画の見直しを進め、よりよい指導を行うことができる計画を立てる必要がある。

※生活指導では早期発見、早期対処の姿勢に加えて、全職員の情報の共有を今後も進めたい。

※交通事故等の件数を減らすためにも、生命の尊さや規律のもつ意味を理解させるための活動をきちんと進める必要がある。

7 2年次

Ⓐ B C D

○自ら選択した系列学習に積極的に取り組み、資格試験へ果敢に挑戦した。また外部模試にも多く参加し、進路希望実現へ大きく踏み出した。

▲生徒への各種指導において、各分掌の事前の連絡を密にすることができず、各種調査やアンケートなどに意義を持って取り組ませられなかった。

▲諸行事への積極的・自主的参加は、全体としては成果が見られるが、個々人が意識的に行えるような指導ができたとは言い難い。

○多様な悩みを抱えている生徒へは、担任、年次会、教育相談係、部顧問その他との連携により、問題解決に向けて個々に合った指導助言を行なうことができた。

○1年次の時と比べて、遅刻や交通事故を減らすことができた。

※受動的な学校生活から脱して、主体的な学校生活を送るために、部活動や諸行事に積極的に取り組ませる。とりわけ、最終学年として、進路実現、諸行事への取り組み、最後の一年間の取り組みなど、個別の目標と計画をしっかりと立てさせ、また個人でスケジュール管理や計画の進捗状況把握ができるよう、適切な助言をしていく必要がある。

※悩みを抱える生徒の把握と彼らへの助言を積極的に行って、学校生活が円滑に送れるように促してゆくことが重要である。

8 3年次

Ⓐ B C D

○HR担任との懇談だけでなく、保護者と系列担当との懇談も実施され、また、適宜進路指導部担当者からの指導も受け、多面的な指導ができた。

○諸活動には継続的に参加し、相応の成果を上げた。

○年次集会の回数は少なかったが、担任団の意識などがHRでの指導が徹底され、規律と協調性のある集団生活を送ることができた。

▲部活動には精力的に参加があったが、進路決定後、主に運動部の生徒の生活状況の変化が目立った。（遅刻の増加など）

▲目先の進路指導の対策に汲々とするあまり、年度の後半は年次会議の開催が少なく、年次会としての共通理解を図ることが難しかった。

○生徒達の落ち着いた生活状況は大きな変化もなく、授業も最後まで当たり前のことながら通常通りに普通に実施できた。生徒らに助けられた部分が多い。

※特定のクラスが進路指導の負担が重くならないようなクラス編成をする必要がある。

※年次の方針を明確に掲げ、生徒指導、進路指導、学習指導、年次経営など、中心となって動く者を明確化し、各担当が積極的に動ける態勢作りが必要だ。

※年度当初に、年次会を年間計画に入れておくとよい。